



トップメッセージ

「生命と健康を守り、 豊かな暮らしを支える」

代表取締役社長 涌元 厚宏



「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」時代の変化を先取りし、特長ある独自の技術をさらに進化させながら、持続可能な社会・環境に貢献し続けます。

2019年6月25日付で代表取締役社長に就任いたしました涌元厚宏です。CSRレポート2019の発行にあたりご挨拶申し上げます。

私たち日本化薬グループは「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」(KAYAKU spirit)を企業ビジョンとしています。これは創業時より長く経営に携わった三代目社長の原安三郎の経営思想を現した社は「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」がもたっています。一人ひとりの良き心を結び合うという「良心の結合」のもと、組織であれ個人であれ、途切れることなく進歩を続けるという「不断の進歩」によって、世の中に必要とされる「最良の製品」を提供し、社会に貢献し続けようという、社員一人ひとりの活動を支えている当社グループ共通の理念です。

私たちはこのKAYAKU spiritを創業時より受け継ぎ、一貫して世のため人のために貢献しようという真摯な姿勢で事業活動を行ってまいりました。現代の大きな市場の変化にあっても、この受け継がれた遺伝子は変わることなく、私たちが継続して成長し続ける原動力であり、強みとなっております。

世界では人口の増加に伴う食料・水の不足、児童労働など労働環境に関する問題、地球温暖化の進行など、気候変動に関する「パリ協定」や国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で提起された課題が山積しています。当社グループの事業環境では、IoTをはじめとする高度情報化社会が進展するなかでより高機能で省エネルギー・省資源・低環境負荷の化学品素材が求められています。医療分野では、国内の医療費の拡大が社会的な問題となっています。自動車社会は世界中で拡大を続けており、車の安全性向上はさらに重要な課題となっています。

私たちは、これらの社会課題に対して社会の公器である企業として真摯に向き合い、当社グループとして積極的に取り組んでまいります。これまで培ってきた柔軟に進化させる事業の強みを活かし、色素や樹脂の技術を応用した低環境負荷機能性材料などで超スマート社会を支える機能化学品事業、抗がん薬やバイオシミュラーなどで患者様のQOL*向上や医療費低減に貢献する医薬事業、自動車安全部品をグローバルに供給し人びとの安全を守るセイフティシステムズ事業、そして安定した農業生産を支え食料問題に貢献するアグロ事業、これらの事業を通じて社会に共有価値を創造、提供してまいります。また、安心安全な職場環境の維持、豊富な人材の育成やダイバーシティの推進を図り、高い倫理観をもってCSR経営を実践しながら企業価値を高めてまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*QOL : Quality of Life

代表取締役社長 涌元厚宏